

森のようちえんいろいろ

取組概要

【効果】

絵画や身体表現などのアート活動を屋外で開催することで、音(木の揺れる・生きものの鳴き声)・匂い(雨の後の笹や土)・広い視界(光・四季で変わる草木や葉)・体感(風・寒い・暑い・冷たい)など五感で環境を感じ感性を豊かに発揮することができていた。

屋内で一定の環境で集中力を保ってこそ行いやすい活動もあるが、屋外環境では自然な働きかけを受けて子ども達がそれに応えるように、環境に合わせた自由な表現(描く・鳴らす・からだを動かす)が引き出されると感じた。自然保育によって、豊かな感性が育まれることと、感性のままに自由な表現することが許される体験から、自己肯定感がより育まれると感じた。

アート講師を招いての創造表現の保育
『からだで表現しよう』 1 2 月



【内容】

里山フィールドの中で、リズムを楽しむ絵本から始まり、簡単な楽器や竹や石などで音を出し、リズムに合わせておどるなど身体表現を楽しむ保育を行いました。

風の音、鳥の鳴き声など自然の音に合わせて、手を動かし音を出していく毎に、こころもからだも開いていく感覚を、子ども達も保育者も一緒に味わいました。

それぞれの動きの後は、自分の中にいるお友達を想像しながら、「〇〇ちゃんの走り方」などとお題を出し、みんなが表現していく、というワークをやりと、それぞれが思い描く〇〇ちゃんのイメージが違うことなどが知れて盛り上がりました。一人一人が多様であるし、さらにそれぞれのイメージの多様であることが体感でき多様性理解につながりました。終盤では、自然の中でお気に入りの場所を見つけて、お気に入りの姿勢をとる、というワークも。自分が安心できる場所や姿勢を確認し、そこをお互いが干渉せず、知っておく・見守るということも体感できました。



森のようちえんいろいろ

落ち葉・枯れ草・枯れ木・・・季節の巡りを感じながら秋の自然物で遊ぼう 12月



【内容】

クヌギの木が多くあるフィールドにて。春～夏は木陰でじっくり遊んでいた場所が、秋には落ち葉のじゅうたんに。くぬぎのどんぐりや落ち葉で全身を使って遊ぶ時間を数日にわたって計画しました。

はじめは目の前にある落ち葉に魅了され落ち葉としっかりあそぶ。後日はそれを使っての遊びに発展していきました。

肌寒い日があり、落ち葉に埋もれるだけでは少し寒い・・・そうだ、家をつくろう！と子どもたちが発想し、近くにある枯れ枝や枯草も集めて骨組みや壁を作りました。

すっぽりと身が隠れると、外の世界とは隔たりのある自分たちだけの空間ができ、なんだか安心であったかい。子どもたちの関係性も深まる時間ともなりました。

